

「はたらく NIPPON! 計画」 A 型フォーラム in 札幌

～北海道から A 型事業所の果たす役割について～

報告書

日 時：平成 30 年 8 月 4 日（土）10:00～15:00

場 所：札幌 ACU-A（アスティー45）

参加人数：（スタッフ含む）130 名人以上。

分科会 10:00～12:00 3 会場に分かれ分科会を行った。

●分科会 1 「多様な雇用モデルから学ぶ経営改善のヒントとその未来」

コーディネータ 法政大学名誉教授 松井亮輔氏

パネリスト NPO 法人札幌チャレンジド理事・事務局長 岡野裕幸氏

一般社団法人 Agricola(アグリコラ) 代表理事 水野智大氏

社会福祉法人さっぽろひかり福祉会 常務理事 小畑有希氏

A 型にとって事業の確立は重要事項です。様々な事例から経営改善のヒントと A 型事業の未来を探る分科会でした。

冒頭、コーディネーターの松井亮輔先生（法政大学名誉教授）より授産施設・福祉工場・A 型事業所への展開、といった A 型事業創設に至る背景や制度的経過、また現状や課題に関する説明があった。次に各パネリスからの実践発表として NPO 法人札幌チャレンジド岡野裕幸事務局長より IT を活用した独自の経営戦略や雇用の創出の取組、次に一般社団法人 Agricola 水野智大代表理事より自然養鶏、有機農業による高付加価値や差別化による農福連携の取組、最後に社会福祉法人さっぽろひかり福祉会小畑有希常務理事より製パン事業における地域密着型の販路開発や地産地消の高品質戦略の講演があった。会場からは、農福連携に関してや A 型の意義等についての質問があり、多様な経営に関しての創意工夫が議論された。

●分科会 2 「A 型における就労支援を考える～中間的就労の試み…などなど」

コーディネータ 株式会社シムス 代表取締役 斎藤規和氏

パネリスト 株式会社シーケンス 代表取締役

A 型事業所 OneLife 管理者 高山真也氏

A 型事業所ラダーサポート管理者 千葉美穂子氏

この分科会では、障がい者にとって働きやすい職場作り、合理的配慮、自立支援、一般就労へのサポートなどを考えてみました。

OneLife の高山さんからは、毎日通う事自体が重要な課題と考え送迎体制・看護師の配置・食事の無料化を実施、当日欠勤があっても利用者間で仕事をカバーできる体制が出来ている、誰でも分かる作業マニュアルと研修ソフトを開発した・・・等の実践発表がありました。

ラダーサポートの千葉さんからは、一般就労への架け橋という事業コンセプト、労働プラス学び・活動という日課の中で仕事や生活のスキルを身に付けられるような多彩なプログラムを用意した・・・等の実践発表がありました。一般就労が難しい障害者にとって、A型事業所の存在はなくてはならないものです。一般就労へのステップでありたい。

●分科会3「誰もが、当たり前で働いて生きていける町へ」

コーディネータ NPO 法人 L and P (エルアンドピー) 管理者 高志博明氏
講師 NPO 法人プロジェクトめむろ副理事長 (エフピコグループ特例子会社エフピコダックス株式会社 福山選別工場課長 且田久美氏

第3分科会では「プロジェクトめむろ」について、副理事長の且田久美様より報告して頂きました。生産性のある事業についてのポイントとして、販路開拓をして、売れるものを作ることで、安定した雇用が確保できるということをあげられました。利益を得るための連携では立場の人同士が向かい合うので、精密な計画と、プレゼンテーション力、どこに向かっている確認すること、熱意をもって取り組むことが重要という指摘がありました。その上で、利益を生み出す仕組みができたなら、障がいのある社員を働けるように支援する力が従事者に問われると福祉職の専門性を突き付けられました。保険証を持てる A型事業所の存在は素晴らしいものである。A型事業所の果たす役割は重要であることを強調されました。そのほか2時間に多くの内容を盛り込んで頂きました。

休憩 12:00～13:00

全体ミーティング 13:00～15:00

座長 全Aネット理事長 久保寺一男

第1分科会コーディネータ 法政大学名誉教授 松井亮輔氏

第2分科会コーディネータ 株式会社シムス 代表取締役 斎藤規和氏

第3分科会コーディネータ NPO 法人 L and P 管理者 高志博明氏

●分科会からの報告

各分科会から各コーディネーターから分科会の内容をご報告いただいた。

●全体ディスカッション「A型事業所の果たす役割」

- ・事業所によっては、時間にとらわれない働き方を実践している事業所もある。
- ・経営改善のヒントは、独自性のあるものを作ることが生き延びる。
- ・5～10年の事業計画を立てて実行することが大切。
- ・普通の会社との違いは、何かしらの障害がある人と仕事をしている。
- ・福祉のプロとビジネスのプロの両立が大切である。
- ・いろいろな経営改善のヒントの本読んで実感がない。

- ・やる気が大切。
- ・障害のある人の働ける場がないのはダメである。
A型事業の難しさ、課題を再確認できました。しかしA型事業は、一般就労が難しい障害者にとってなくてはならない制度であることも確認できました。

- 会場から質疑を受け、また意見をいただいた。
 - ・今後は手帳を持っている人だけでなくもっと幅を広げ、若い人、高齢者などにもA型が利用できる仕組みを作る必要があるのでは？
 - ・AだBだ移行だと言っているが、本来このような制度は将来無くす方向に進まなければならない。

※札幌ひかり福祉会理事長の上野氏より意見をいただいた。

ILO159号条約（職業リハビリテーション及び雇用に関する条約）以来、障害者の労働者の権利を保障できていない。障害者総合支援法のA型も、本来の労働者性を保証する制度とすべきである。

※且田久美氏より意見をいただいた。

社会保険証を渡すことが出来るA型事業所は素晴らしい仕組みだと思う。これからもA型事業所を応援していきたい。行政が悪い、制度が悪いと言っているのは、前進できない。赤字の事業所の支援を岡山県で始めた。